

2年部の実践

1 単元名 『サンカク・シカクかい人をたおせ！ネイガー！』「三角形と四角形」

2 単元について

子供たちは、これまで具体物を観察したり、操作したりする活動を通して、基本的な立体図形を弁別してきた。また、色板を用いて形を構成する活動を通して、「三角」「四角」「丸」といった基本的な図形の特徴をとらえてきた。

本単元では、これまでの既習事項をふまえ、点と点を直線で結んで絵を囲むという活動を通して、構成要素に目を向けさせながら基本図形である三角形、四角形を定義し、その意味理解を図っていくようにする。また、身近なものを観察する、点をつないで作図する、紙を切って並べるなどの具体的な活動を体験することで、平面図形の理解を深めていく。

3 単元の目標

- ・身のまわりのものの中から、三角形や四角形を見付けようとしている。
- ・点と点を直線で結んでできた形について、直線の本数に着目して仲間分けを考えることができる。
- ・点と点を直線で結んで三角形や四角形を作ったり、色紙を直線で2つに切って三角形や四角形を作ったりすることができる。
- ・三角形や四角形であるかの判断は、図形の位置や向き、大きさなどには関係がなく、直線の本数によることが分かる。

4 指導に当たって

単元を通して子供たちが興味をもって学習に取り組めるように、ストーリー性をもった単元の展開を試みることにした。

単元の導入では、子供の意欲を高めるために、ストーリーの主人公が使う必殺技のカードを取るゲームを行う。直線で囲んだ形を定義と結び付けて見ていくようにしていきたい。

身のまわりの形を三角形や四角形に仲間分けする活動では、実際に自分たちで見付ける時間をとり、子供たちの目が自然と構成されている形に向いていくようにしていきたい。また、子供たちが見付けられるものを絵や写真で掲示し、形を目で確かめられるようにし、共通の話題として話し合うことができるようにしたい。

ジオボードを使って三角形や四角形を作る活動では、 3×3 のドットシートを準備する。作った形について気付いたことを発表し合うときに、発表用のプリントを回転したり、移動したりして、向きや位置が違って形は同じであることに気付くようにしていきたい。また、四角形を作る活動の中で、斜めの直線を使った形ができたとき、第1時でおさえた定義に照らして、これも四角形であることを理解させたい。

紙を直線で2つに切って三角形や四角形を作る活動では、切る前に鉛筆で直線を引くことで見通しをもって取り組めるようにしたい。また、定義に着目しながらできた形を観察することで、1つの図形が様々な図形から構成されていることに気付くようにしていきたい。

単元の終末では、紙を切ってできた三角形や四角形を自由に組み合わせて絵を作る活動を行う。作る絵を考えると、身近にある具体物を想像しながら三角形や四角形を組み合わせて絵を作るようにすることで、身のまわりの具体物の中にも三角形や四角形と見なすことができるものがあることを感じ取るようにしたい。